河合塾エンリッチ講座 2016

社会学入門

―社会運動を事例として―

■講演：**松井隆志**（武蔵大学社会学部准教授）　■司会：**池田五律**（小論文科講師）

「社会学」とはよく目にするけれど、正体がよくわからない。「社会＋学」だから、社会のことを学べば何でも社会学になるのだろうか。確かに社会学はほとんど何でも研究対象にできる。けれど、社会のことさえ研究すれば社会学になるわけではない。本講座では、簡単そうで実はややこしい、社会学の「見方」を伝えたい。

そして今回、社会学的分析の事例とするのは「社会運動」。世界はもとより、日本でも近年急速に身近になった。こちらも、「人々が怒っているから」とか「騒ぎたいだけ」とか、わかりやすいように見えて、本当は複雑な現象だ。そんな社会運動の秘密を社会学で解き明かしてみたい。

要するに、「社会学」と「社会運動」、両方まとめて「入門」するのが本講座の目的だ。

◉松井（まつい） 隆志（たかし） プロフィール

1976年生まれ、千葉県出身。

武蔵大学社会学部准教授。専門は社会運動論、戦後日本の歴史社会学。河合塾松戸校（現柏校）の大学受験科出身。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程満期退学後、2013年より現職。

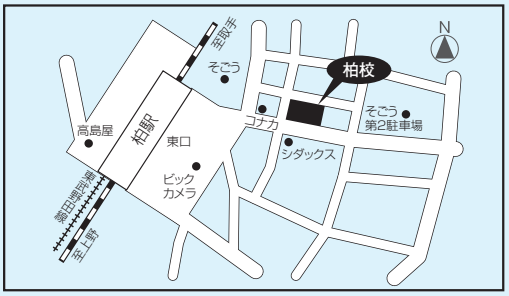
論文に、「60年安保闘争とは何だったのか」（岩崎稔ほか編『戦後日本スタディーズ2』紀伊國屋書店）、「対抗暴力批判の来歴」（千田有紀編『上野千鶴子に挑む』勁草書房）、「鶴見俊輔：後ろ向きの前進」（大園誠ほか編『戦後思想の再審判』法律文化社）など。

6月27日(月)　18:00～19:30

柏校　3A教室

入場無料
申込不要

〒277-0005　千葉県柏市柏4-3-1
0120-192-050
●JR常磐線・東武野田線柏駅東口から徒歩1分



※塾生・保護者の方、一般の方も自由にご参加いただけます。